

第1回 キャンパスおだわら運営委員会 会議記録

日 時	平成24年8月10日（金）午前10時から12時まで			
場 所	小田原市役所 3階 議会全員協議会室			
出席者	委 員 ◎委員長 ○副委員長	学識経験者	◎三輪建二	出席
		市民代表	○瀬戸充	出席
			大木重美	出席
		各種生涯学習団体	遠藤豊子	出席
			小早川のぞみ	出席
			宮崎淳子	出席
			湯山尊明	欠席
		学識経験者	新井恵美子	欠席
			鈴木みゆき	欠席
			瀬沼克彰	出席
	教育委員会が必要と認める者	諸星正美	出席	
	事務局	文化部	奥津副部長	
生涯学習課		古矢課長、村田係長、穂谷野係長、杉崎主査		
NPO 法人 小田原市生涯学習推進員の会		奥村理事長、栗林副理事長、木村事務局長、上田会員、福島会員		
傍聴者	1名			

議題 （1）委員の変更及び副委員長の選出について

【説明】

事務局 運営委員として小田原市自治会総連合から推薦いただき、副委員長を担っていただいた栢沼行雄委員については、当該連合の役員改選により委員変更の通知があった。残任期間について、瀬戸充委員にご参画いただくことになった。

また、市民公募により委員となられた秋葉徳和委員については、体調不良により辞退届が提出されたので受理した。キャンパスおだわら運営委員会としては欠員1名としたい。

次に、副委員長の選出について、説明させていただく。

「キャンパスおだわら運営委員会設置要綱」第4条に、「委員会に委員長及び副委員長を1人置き、委員の互選により定める」との規定があるので、副委

員長を選出していただきたい。

三輪委員長 委員の皆様からご意見を伺いたい。

宮崎委員 事務局一任でお願いしたい。

三輪委員長 事務局一任という声があがったが、そのように取り計らってよろしいか。

(異議なしとの声)

三輪委員長 それでは、事務局から案があればお願いしたい。

事務局 副委員長の選出について、提案させていただく。市内でさまざまな地域づくり活動に取り組んでおられる、市民代表から選出された瀬戸委員に副委員長をお願いしたい。

三輪委員長 市民代表の瀬戸委員との事務局案が示されたが、いかがか。

(全員異議なし)

三輪委員長 異議ないものと認め、瀬戸委員を副委員長に決定する。

議題 (2) 報告事項ーア 情報誌「キャンパスおだわら」について

【説明】

事務局 キャンパスおだわらでは、学習希望者が一度に多くの情報を手に入れ選択することができるように、情報誌「キャンパスおだわら」とインターネットを活用したキャンパスおだわらホームページや PLANET かながわにより、一元的に生涯学習情報を提供している。

その中心的な位置づけのキャンパスおだわら情報誌は、従来、季刊発行のため、講座企画と情報誌の発行タイミングが合わず掲載できないケースが顕在化していた。この対策として、昨年度第4回運営委員会で議論いただき、毎月発行することを確認し、会員12名の新体制で7月から毎月発行を開始した。毎号、概ね2か月間の行程で、月初めに発行するよう計画している。情報の一元管理や予算等の諸課題があるが、順次課題を解決し、まずは新体制の定着化を目指し、内容の充実を図り期待される情報誌となるよう進めていく。

三輪委員長 新しい体制で、毎月発行にしたということだが、何か質問はあるか。

瀬沼委員 12名の新体制ということだが、負担軽減のための2チーム体制は検討しているのか。

事務局 昨年度の第4回運営委員会でもご指摘いただいた2チーム体制については、

その方向を目指しているが、スタート時は一緒に進めて、軌道に乗ってからチームを分割するように考えている。

三輪委員長 予算や2チーム体制への移行などの課題もあるようだが、解決しながら進めていただきたい。

議題 (2) 報告事項ーイ 平成23年度学習講座等実施状況について

【説明】

事務局 昨年度、市広報紙と、キャンパスおだわら情報誌に掲載された、市等が主催した講座等の実施状況で、所管別の概要を示している。昨年度の実施状況は、187事業、707講座を開催し、25,037名の参加者だった。
なお、平成22年度については、キャンパスシティ対象事業の実施状況になるが、75事業、542講座を開催し、14,806名の参加者だった。
今後も、事業・講座等が増加し、だれもが気軽に参加できる学習環境が整えられ、学習者が増えるよう目指してまいりたい。

三輪委員長 何か質問はあるか。

(質問・意見なし)

議題 (2) 報告事項ーウ 開設講座について

【説明】

事務局 キャンパスおだわら情報誌7月号・8月号に掲載の情報が開設講座である。参考資料の「キャンパスおだわら学習講座(7月～6月の講座)」によると、キャンパスおだわら情報誌で捉えている講座は、合計428講座である。行政講座に対し、市民講座が163講座と少ない現状である。市民講座については、公募型市民企画講座を展開し始めたところであるので、今後は増加するように重点的に対応していきたい。

三輪委員長 何か質問はあるか。

(質問・意見なし)

議題 (3) 協議事項ーア 人材バンク制度について

・事務局が、参考資料・資料3・4・5に基づいて説明。

【説明】

事務局

人材バンク制度については、昨年度から運営委員会において、ご審議いただいている。昨年度第4回運営委員会で、参考資料「人材バンク制度について」により、ご提案させていただき、特に、年会費、人材バンクのジャンル、講師料について深く議論していただいた。その中で、これらの課題については、実際に活動しているきらめき☆市民教授の意見を聞いて、それを踏まえたいうえで方向性を出せるのではないかと、ということになった。

そのご意見を受け、5月30日に、きらめき☆市民教授に対して「キャンパスおだわらの人材バンク制度意見交換会」を開催した。当日は、きらめき☆市民教授23名が出席した。内容は、運営委員会でいただいたご意見や検討資料を、きらめき☆市民教授の皆さんにご説明し、その後、きらめき☆市民教授の皆さんからグループディスカッションにより、年会費と講師料に対するご意見とその理由を伺った。

また併せて、当日欠席の方もいらしたので、市民教授全員にアンケートをとった。アンケートは、意見交換会にも出席した市民教授も含む137名全員に対して行い、回答者は58名で、回収率は42.3%だった。

その結果は、「検討資料の案のとおりでよい」というご意見が多い中、「6. 年会費(登録料)」「8. ジャンル(人材バンク登録者のグループ分け)」「14. 講師料」について、意見が分かれた。

「6. 年会費」については、「無料がよい」とする意見が半数を占めたものの、「有料がよい」とする意見も多い結果だった。

「8. ジャンル」については、「キャンパスおだわら講座ジャンルと同じがよい」と「現行のきらめき☆市民教授分野別分類と同じがよい」が、ほぼ同じ割合であったのに対し、「PLANET かながわの指導者・人材の分類と同じがよい」を選択される方はあまりいなかった。「現行のきらめき☆市民教授分野別分類」を基本としながら、「キャンパスおだわら講座ジャンル」の変更も踏まえて、探しやすい分かりやすい分類を作成する必要があるようだ。

「14. 講師料」については、「有償と無償を選択できる方がよい」とする意見が約半数だったが、「無償がよい」とする意見も依然として多い状況だった。

また、アンケート以外に、「9. 登録要件」について意見があった。

現在、登録できないものについて、政治・宗教など現在の条件があるが、これに、学問的・学術的に根拠のないもの、科学的裏付けがないものという項目を加えたい、例えば、占いなどは、公共的な制度の中で取り扱うべきではないというものである。受講者が信じ込んでしまい、合理的な判断を欠いてしまう恐れもあると強い懸念を示された。

これらのきらめき☆市民教授の意見を踏まえ、キャンパスおだわらの人材バンク制度が市民主体で運営でき、学びを広げられるような仕組みとなるよう、議論いただきたい。

人材バンク制度の今後のスケジュール案については、本日の運営委員会でのご意見を踏まえ、人材バンクの担い手となり得る、生涯学習関係団体と調整し、10月中旬頃を予定している第2回運営委員会において、キャンパスおだわらの人材バンクについて、市民主体で運営していくうえで最もよい方法はどのようなものかなどをプレゼンテーションしていただきたいと考えている。11月下旬頃を予定している第3回運営委員会において、方向性を決定し、来年度からの稼働を目指して、広報周知、登録者の募集、申込者の面接、名簿の作成等、進めていきたいと考えている。

プレゼンテーションしていただく提案内容については、本日までの運営委員会で決定したことや出されたご意見を踏まえたものとしていただく。行政からの必要な条件については、後日、プレゼンテーションしていただく団体に提示したい。

三輪委員長 大きな論点として、年会費、ジャンル、講師料、登録要件、今後のスケジュール案があるが、枠に捉われず幅広いご意見をいただきたい。

瀬沼委員 議論をするにあたり、それぞれに絡みがあるものだが、項目を決めて、個別に議論した方が効率的だと思う。市民教授の意見や委員の意見を踏まえて、運営委員会として決定したらどうか。

三輪委員長 それでは、項目ごとに進めたい。まず、年会費について議論したい。有料と無料の意見が出ている。

宮崎委員 5月の市民教授に対する意見交換会に、23名の参加ということだった。どのような集め方だったのか。きらめき☆市民教授の自発的な意思で集まったのか。事務局が依頼して集まったのか。

事務局 きらめき☆おだわら塾を運営する会主催の「市民教授の集い」の後、開催した。行政からの呼び掛けに応じて、参加いただいた方である。

遠藤委員 市民教授は、キャンパスおだわらの人材バンク制度の核となるものと想定されるので、その意見は尊重すべきであると思う。アンケートの年会費は、有料か無料かという設問だが、「有料・無料の両方あり」という設問はあったのか。「有料がよい」と「無料がよい」の2通りしかなかったのか。

事務局 内容の中で、有料にして使い道をどうするかが明らかにならないと、有料か無料かというのにも答えにくい、有料になった場合のメリットなど、明らかにしないと答えられないという意見はあった。設問としては、「有料がよい」と「無料がよい」の2通りだけで、その他にご意見を記入いただくという方法

だった。

小早川委員 人材バンクは、キャンパスおだわらが有する宝であり、きらめき☆市民教授だけではなく、他にも多くの登録可能な人材がいる。今までの市民教授システムは、キャンパスおだわらの中ではすでに停止していると考えている。市民教授システムを引き継ぐのではなく、新しい制度を考えなくてはならないと思っている。

宮崎委員 小早川委員とほとんど同じ認識である。(仮称)おだわら生涯学習大学準備会では、講師として人材バンクに登録するほかに、コーディネーターや企画者なども含めた人材バンクという認識だった。ボランティアなのに年会費を払うことには、違和感があり、これまでの小田原にはなかったように思う。

大木委員 今後のスケジュールとして、ボランティアの対象が講師だけではなく、コーディネーターや企画立案者、フェスティバルなどのお手伝いなどを考えなければならないとしたら、なぜ登録料が必要なのかを考えることが大事である。

三輪委員長 市民教授だけを中心に人材バンクを考えるのではなく、今後は幅広い対象のボランティア活動を考える必要があるのではないかと、という意見が出た。その流れで考えると、ボランティアなどに登録料を払ってもらうのは難しい、というご意見になると思うが、他にご意見はあるか。

諸星委員 本日までのプロセスを改めて整理していただきたい。確かに、(仮称)おだわら生涯学習大学準備会では、企画立案者や託児など生涯学習をサポートする人を含め、幅広いボランティアを人材バンクとして議論していた。しかし、一度にこれらを人材バンク制度として取り扱うのは複雑な議論になるので、現行活動している市民教授をベースにして、講師の分野に絞って人材バンク制度を作ろうと目指してきたと理解している。その中で、アンケートを取って市民教授のご意見を伺った。

一方で、今後の制度としてまとまってきた案が、なぜそのような案になっているのか説明がないと、委員は判断しにくいだろう。年会費については、ボランティアという思想的なもの、市民が自立して組織を運営する経営的なものと、2つをどう満たしていくかの問題になる。そこが整理されないと前に進まない。論点を整理して、事務局がフォローしてほしい。

瀬沼委員 生涯学習ボランティアの登録料について、小田原は無料が前提で有料化は考えられないという議論があるが、アメリカの先進事例を参考にすべきと思う。アメリカは、登録にお金を払うのは当然であり、市の税金をいつまでも当てにするのではなく、自分たちの登録したお金で遣り繰りするという考えである。アメリカで重視されているのは、ボランティアの研修である。ボランティアの時間と研修が同じくらいの時間でなければ、ボランティアとしてやっていけないというのが常識である。良い研修のためには、お金が必要である。登録して初めて自分に自覚が伴うという考えは問題がある。ボランティアに

関しては、日本は全くの後進国であり、先進事例に学ぶべきと考える。

三輪委員長 事務局で論点を整理していただきたい。

事務局 運営に係る経費をどのように捻出していくかについて、新しい公共によって、市民がキャンパスおだわらを進めていくというのが前提であり、制度があつてボランティアとしてお手伝いすればよいということではない。自分たちで制度を支えていく考えでいくと、有料という選択肢があるのではないかと、というのがこれまでの議論である。また、市民教授にとっては、教えることが自分にとっての生涯学習になるし、無償の良さで気軽に参加できた。善意で活動してきたという意識も強く、有償にするとハードルが高くなり、事業そのものが縮小してしまうという懸念もあるため、無償を継続というのが、もう一方の議論である。

小早川委員 人材バンクの登録者は講師だけではなく、企画立案者やサポータースタッフなどの能力が人材バンクに積まれていく。自分が講座を持つ以外に、生きがいを見つけられる方が人材バンクの中に多く入ってくると思う。自分がキャンパスおだわらを支える人材バンクの一員だと自覚を持つためにも、高い金額ではない有料制を推薦する。

事務局 人材バンクの分野について、準備の段階では、サポートスタッフやコーディネーターなどを含めた人材バンクにしようという議論もあったが、まずは、講師に絞って制度を設立していこうという話で来ている。生涯学習以外のサポートスタッフは、コンサートスタッフや市民サポーターなどいくつかのグループで活動がスタートしており、当面はそちらに任せたい。生涯学習としてまず必要なのは、ということを考えてときに、講師に絞って進めたい。

事務局 事務局でも意見が分かれている。市民教授制度は、行政が全面的に無料のボランティア活動として展開してきた。キャンパスおだわら人材バンクは、新しい公共の下に、市民が自立して運営していくという前提があつて、年会費の話が進められてきた背景がある。市民教授に対する意見交換会は、行政が設定した。市民教授制度自体、もっとオープンに展開していくべきである。

事務局 年会費について、事務局の中でも2つの案があつた。1つは、人材バンクを運営するための経費の負担を求めるものである。有料とすることで、人材バンクの活性化を目指すものである。もう1つは、有料でも何に使うのか明確にしなければ会費を求めることはできないし、金額も決まらない、登録者への還元を考えたときに無料という考え方である。他に諸経費の捻出は必要だが、登録料以外の方法はないのかという議論があつた。

遠藤委員 登録料は無料がいいと言っている人の中にも、そのお金の使い方によっては、有料でいいと言う人もいる。有料にして、研修やPRに使うなど、これからの活動にプラスになる使い方をされるなら有料でもいいと考える。

三輪委員長 議論を整理したい。登録料について、市民教授だけを考えるのではなく、コーディネーターなどのボランティアなどにも広げて考えてから決める方が、議論しやすいという流れになっている。その際に、必ず無料でなければならないというよりは、有料の場合はその根拠をしっかりと示すという意見があった。自覚を促す意味で有料にすべきという意見、瀬沼委員から研修をするために有料にすべきという意見、遠藤委員から研修のみならず、PRなどに使うべきという意見が出された。個人的には、研修はとても大事だと思っている。専門分野を教えるからプロだと思っているかもしれないが、教える専門だけではなく、市民が自発的にまちづくりに活動するために教え育てるということは、高度な能力を要する。市民の自立を促すために、人材バンクの講師として、専門家の講演を設けたり、教え方についてディスカッションする場を設けたりということは、ぜひやっていただきたい。登録料について、ここで決定までした方がよいか。

事務局 本日決定ということではなく、委員からのご意見を踏まえて、次回のプレゼンテーションに生かしていただきたい。年会費は、どのくらいの金額でどう使うか、登録料がなくても受講料で賄うなど、プレゼンテーションの精度を上げるために盛り込んでいければいいと思っている。

三輪委員長 プレゼンテーションは10月とのことだが、間に合うのか。

事務局 間に合うと思っている。10月のプレゼンテーションの中で、さらに議論を進めていきたい。

三輪委員長 委員としては、人材バンクの範囲を広げることと、趣旨を明確にした形で登録料はそれほど金額が高くなければ有料の方向、ということでまとまりつつあるが、いかがか。

宮崎委員 キャンパスおだわらの運営のために、登録料のみならず参加料なども含め、全体をどう運営することになるか、よく分からない。市民の自立のために、市は財政的にどの程度負担できるかなどが分からない。市民がすべて自主的に運営すると考えているのか、判断に迷っている。参加者あつてのキャンパスおだわらだと思う。

三輪委員長 次の検討項目も考慮して、登録料だけではなく、講師料や参加料なども含めた青写真は事務局にあるのか。

事務局 行政が財政的にどの程度負担できるかは、今は言えない。プレゼンテーションが、行政の支援ありきなのか、自立性が強いものなのか、ということも1つの考え方だと思っている。プレゼンテーションの中で具体的な提案に結びつくように、行政から条件提示をしたいと思っている。

宮崎委員 プレゼンテーションは、事務局が行うということか。

- 事務局 今回、初めてプレゼンテーションという提案を出させていただいた。市民が担っていくということは、担い手によって考え方があって思っている。最終的には、いろいろな市民の方が一緒になって運営していくのが一番いいが、核となる考え方を核として動いていただく方に明示していただくという意味でのプレゼンテーションである。
- 宮崎委員 実際、だれがプレゼンテーションを行うのか。
- 事務局 具体的には、NPO 法人 小田原市生涯学習推進員の会と、きらめき☆おだわら塾を運営する会を想定している。
- 事務局 NPO 法人 小田原市生涯学習推進員の会として参加しようと思っているが、全体のご意見を聞いていると、2 団体に絞っていいのかとも思っている。キャンパスおだわらの人材バンクは、自立した運営を目指すという大きな目的があるので。
- 遠藤委員 プレゼンテーションはやらなければならないものなのか。運営委員会でもっと詰めていくことはできないのか。
- 事務局 事務局としては、プレゼンテーションという手法を提案させていただいた。委員の皆さんからご意見をいただきたい。
- 小早川委員 運営委員としては、プレゼンテーションで何を見たいか、何を見させてくれるのかということが問題にあると思う。具体的なものがあるのか。
- 諸星委員 税金を委託料として、より相応しい団体に事業をお願いするためにプレゼンテーションを行うのであれば、そのルールをこの場で公開するのは公平性に欠けると思う。この場は人材バンクの制度設計を議論する場であり、経営の話がまったく出ていないのが問題である。多少なりとも試算されたうえでの制度設計を議論して、プレゼンテーションを受けるための仕様など、改めてルールが公開されるのは分かる。コンペティションの前に、その基準を公開して話し合うのはありえない。人材バンクがキャンパスおだわらの中で、どうあるべきかを定めないといけない。
- 大木委員 スケジュールを見ると、来年4月から人材バンク制度を稼動するようになっている。予算との兼ね合いで、11月頃に最終決定するのであれば、ここできちんと決めるのではなく、独立性・自立性を出して、自立するための人材バンクとして基本理念の方向性を示せばよいと考える。
- 三輪委員長 人材バンク制度は、市民教授を含め幅広い範囲の業種を定めること、人材バンク制度を市民の自立に向けての制度として位置づけること。その中で、登録料については、運営費用のためにとということを含めて使い道を明示する。また、登録料だけではなく、参加費や講師料など、人材バンク制度全体の見通しがあるといいという意見があった。

個人的な意見だが、自立した市民が支える人材バンクということを見ると、ある程度有料を前提として議論の方がよいと思う。行政にすべて委ねるという方法ではなく、市民が運営に関わるという視点から考えると、講師料や参加費などすべてが有料ということはないかと思うが、有料を見越しながら議論するのはいかがか。

瀬沼委員 委員長の見解に賛成である。委員長が方向を示されたように、事務局が論点を整理し一覧表にして、その選択を次回の運営委員会に提案してもらうことがいいと思う。

事務局 10月に人材バンクを担っていただく団体によるプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの内容を詰める前段階として、講師料をどうするかなどの意見を出し尽くしていただきたい。次回、事務局案として、このことを議論するのは、来年4月からの稼働に間に合わなくなる。事務局側としては、マトリクスという形にはなっていないが、検討いただく材料はすべて提示したと考えている。

瀬沼委員 それぞれの項目が錯綜しているので、今日マトリクス表で出していただいたら議論がスムーズになって結論を出すことができたとと思う。整理されたマトリクス表で議論し、それを事務局に戻し、制度設計をするということになるかと思う。

三輪委員長 ある程度、方向性を決めた方がよいか。

事務局 事務局としては、本日結論は出していただかなくてもいいが、ご意見を伺ったうえでプレゼンテーションに臨めればと思っている。

三輪委員長 私案としては、新しい公共を担うという理念の下に、運営費や研修の要件などはきちんと明確にするということで、登録料は有料の方向で考えるということと、講師料や参加料は、有償・無償の両方あって有償を打ち出してもいい、ということで進めたい。生みの苦しみがあって、受講者が減るかもしれないが、参加者自身責任をもって講座に関わる自覚のためにも、無償の講座もあるけど有償の講座もあるということで考えたい。ご意見はあるか。

大木委員 原則、賛成である。民間のカルチャーセンターが増えている。公的な機関がバックアップしているものの考え方は、仲間づくりであり、民間のカルチャーセンターとは違う。仲間づくりや一緒に学ぶということが大事である。原則、受益者負担を前提でやっていくことがよいのではないかと考える。

三輪委員長 民間のカルチャーセンターとの趣旨の違いをもう少し出したい。知識を得て個人が成長するだけではなく、それが小田原のまちづくり、仲間づくりに生かしていくことを目的として、民間のカルチャーセンターよりも安価で実施していくようにしたらよいのではないか。

- 宮崎委員 キャンパスおだわらの内容は、ジャンルが広い。一律に受講料を決めるのではなく、有償もあっていいと枠組みをつけておくと取り組みがしやすいということが見えてきた。市民主体でやるというコンセプトが根底にある。有料・無料の両方あるのは、キャンパスおだわらの趣旨と合致している。また、人材バンクの担い手は、講師だけには拘らないということは、今後の発展性のためにも考慮してほしい。
- 三輪委員長 人材バンクも含めて、市民が、キャンパスおだわらの担い手として成長していくという基本方針を踏まえたうえで、登録料や講師料、参加費は一律無償ではなく、趣旨に沿った形で運営しやすいように有償の選択肢があるということが共通意見と考える。
- 瀬沼委員 大枠は、委員長のまとめでいいのではないか。細かい詰めは、本日の議論を踏まえて、キャンパスおだわらはこういう方向で行くと、次回出してもらえればいいと思う。
- 瀬戸副委員長 市民教授の登録は、どこからか依頼されているのか、自分の知識があるので教えたいと自発的に申し出て登録するのか。
- 事務局 現在の制度は、呼び掛けをするが、登録にあたっては自発的に申し出たものである。
次回、事務局で整理して案を出し、それを審議するというのではなく、人材バンクを担っていただく団体が詰めてプレゼンテーションしてもらおうように考えている。その前に、事務局で条件として整理した情報を提示し、その条件の中で考えてもらうようにする。
- 瀬沼委員 プレゼンテーションを行う相手方を考えているのか。
- 事務局 NPO法人 小田原市生涯学習推進員の会ときらめき☆おだわら塾を運営する会を考えている。
- 瀬沼委員 行政では、2団体がジョイントした形で、人材バンクの運営主体になってもらおうと考えているのか。現在、2団体が異なる業務をしているわけだが、人材バンク業務としてはどう考えているのか。
- 事務局 それは、プレゼンテーション次第だと考える。提案されたことが完璧だったら、その案で推進する場合もあるし、部分的な分担という場合もある。委員からの意見によって修正を加えることもあり得る。修正を加えることのできるプレゼンテーションと考えている。エスキースコンペという方法もある。
- 瀬沼委員 2団体は、この発言を重く受け止めて、次回のプレゼンテーションに臨んでもらいたい。
- 事務局 事務局としての考えを出して、委員会で審議いただくことが前提だが、人材バンク制度については、いろいろな経緯を基に、このような状況になってい

ることはご理解いただきたい。

NPO 法人 小田原市生涯学習推進員の会は、事務局を担っており、キャンパスおだわら全体の事業に関わる取り組みを進めている。プレゼンテーションですべて出そうと思っている。

遠藤委員 どのような立場で言っているのか。

事務局 瀬沼委員からの、事務局案はどうか、というご意見に対して弁解をさせていただいた。

小早川委員 NPO 法人 小田原市生涯学習推進員の会の一員なので、プレゼンテーションにおいては、どのような立場をとればいいのか。

諸星委員 一般的には、プレゼンテーションの前にオリエンテーションがある。今回は、単純に行政が委託をするために相手を決めるコンペティションとは違う。これまでとは違う形で、人材バンクの運営をしていただくことになる。これまでは、行政が人材バンクを持っていて、そこに市民教授として登録していただき運営してきた。市民教授が活発に活動できるように、きらめき☆おだわら塾を運営する会の前身である運営委員会の方が集められ、行政とともに進めてきた。今回は、人材バンクを新たに立ち上げるということでもあり、きらめき☆おだわら塾を運営する会に即して言えば、その組織が自立して発展していくことでもあると理解すべきと思っている。市民組織として自立した形で人材バンクを運営するには、どういうやり方があるかを提案することが、今回のプレゼンテーションの趣旨である。その意味では、企画の内容を提案いただき、それを改めて今後人材バンクがどうあるべきかについて、運営委員会で検討する材料にするということではないか。

三輪委員長 小早川委員は、当事者であることを自覚しつつも、運営委員として発言していただいている。新しい仕組みかもしれないが、そのような方向で進めたい。

遠藤委員 2 団体以外の一般公募のプレゼンテーションはないということによろしいか。プレゼンテーションだと身構えるのではなく、よりよい人材バンクの在り方の提案をするということと理解した。それを参考に、運営委員会で議論して方向性を決めるということによろしいか。

三輪委員長 それで結構である。プレゼンテーションは、コンペティションではなく提案であって、それを踏まえて運営委員会で検討し、第 3 回で方向性を決定することとする。日程的な問題もあり、今日中にある程度まとめたいということで議論してきた。キャンパスおだわらの理念との関係の中における人材バンクの位置づけや、登録料、講師料、参加費について、新しい公共の担い手という趣旨からすると、すべてを無償ではなく有償もあるというように整理できると思う。協議というよりも、この内容で進めるという段階だと思うので、事務局は論点を整理して委員長へ提出してほしい。ワンクッション置いて、

委員長として事前に検討したい。他にご意見はあるか。

諸星委員 宮崎委員、小早川委員の意見にあった、人材バンクの範囲が講師だけでよいのか、というところが重要な論点であると考えている。懸念がいくつかある。1つは、講師でない方を人材バンクの受け皿の中でどう扱うのか見えていない。また、企画をしたり、運営をしたりという作業は、人材バンクの受け皿になる方々がやるものと想定されるのではないかと思う。受け皿を作ろうとしているのに、受け皿の担い手も人材バンクとして募集してしまうところが、どう整理されるのかが懸念される。

さらに、託児関係については、文化施設の中での託児サービスや、男女共同参画における審議会など、女性が参加しやすいように託児が必要という議論がある。託児が、生涯学習の範疇に納まりきらなくなったということがあり、今回の人材バンクからはかなり整理したという背景がある。プレゼンテーションで提案をする中で、人材バンク制度の中に、こうすれば講師以外の方も組み込めると提案できればしていただきたい。運営母体がやるべき仕事まで、登録すべき人材の仕事として意見が出ていた傾向にあったと思うので、整理していただきたいと思う。

瀬沼委員 小田原は、講師に限定した方がよいのではないかと考える。両方募集しているところもあるが、厚木市は講師のなり手はいるが、マネジメントは少ない。相模原市も同様である。当面は講師のみの人材バンクに限定して、運営などは担い手の方に任せた方がいいのではないかと思う。

小早川委員 今回は講師に限定して、制度設計をするということか。

瀬沼委員 その通りである。

諸星委員 講師だけに絞らないと、絶対にできないとは言わないが、制度設計が複雑になる。それができる設計であればよいのではないか。

瀬沼委員 実際難しいので、当面は講師のみでいいのではないか。小田原では、NPO法人 小田原市生涯学習推進員の会ときらめき☆おだわら塾を運営する会が、2団体とも育ってきて、実際に事業を運営しているので、任せてもいいのではないかと考える。

小早川委員 自分自身を考えると、講師をやるよりもコーディネーターが向いている人がいるのではないかと思う。人材バンクの中に、講師以外の分野も含めてもいいのではないかと思う。

瀬沼委員 実際、募集してみると、講師以外の分野の人は少ないことが明らかだと思う。

宮崎委員 講師以外の人材が少なくても、そのような方が生きる場を与えるのも生涯学習の一つの在り方と思い、幅広く考えている。

キャンパスおだわらの担い手は市民主体であり、運営するお金はできるだけ講師や参加者などで出し合う。場所など公共的なものは行政が負担をする。そのような中で、キャンパスおだわらは船出をしたと認識している。プレゼンテーションでは、キャンパスおだわらの運営はこのようなイメージで、その中で人材バンクはこのようにしたい、と示していただきたい。これまで、きらめき☆おだわら塾を運営する会と行政がやってきたものを大事にしながらか、さらに「これもある」ということを市民に分かるような提示をしていただきたい。

三輪委員長 実質的には講師に限定だと思うが、窓口を広げながら考えチャレンジし、毎年見直していけばよいかと思う。

議題 (3) 協議事項ーイ 開設予定講座について

- ・事務局が、資料6に基づいて説明。

【説明】

事務局 今回は、9月以降に開設する予定の講座で、現在把握しているものは74件の講座となっている。

(質疑なし)

三輪委員長 以上で議事を終了する。次回は10月頃とする。本日欠席の委員には、事務局より報告をお願いします。

その他

特になし

以上